

長期計画で本社内の全会議室にテレビ会議導入予定

IP化で通信費の削減に成功

海外拠点にも導入し、業務の効率化・出張費削減を実現

User Profile

機械部品メーカー様

事業内容：機械加工製品の製造・販売
従業員数：約430名
導入年月：2013年11月

ISDN通信からIP化へと環境改善、接続拠点を増やし環境充実

某部品製造メーカー様では、10年以上前からテレビ会議システムを業務ツールとして活用されていらっしゃいました。当初国内の限られた会議室のみに設置されていましたが、今では本社の半分以上の会議室と海外の主要拠点にもテレビ会議環境を設け、大事なコミュニケーションツールとして活用されています。

最初に導入したテレビ会議システムは会議中の雑音や音の途切れなどトラブルが多々発生し、音声会議に切り替えなければならない状態でした。また、当時はISDN回線が主流だったため、利用時間に比例して加算される通信コストも問題となっていました。

2006年に国内拠点のテレビ会議用ネットワークをIP化し、IP対応テレビ会議へ買い替えました。また、同時期に海外12拠点への新規導入も実施されました。海外拠点への導入は、①日本で一括決済ができる、②各拠点のシステム情報を本社で一括管理でき管理しやすい、③システムトラブル

がおきた際、VTVジャパンサポートデスクでも障害切り分けを行う点などを評価いただき、VTVジャパンの「海外導入支援プログラム」をご利用いただきました。アメリカ、イギリス、ドイツ、中国他アジア6カ国の対応をほぼ同時進行で導入調整を進め、現地ご担当者様にもご協力いただきながら接続確認まで終わりました。

導入前の機器選定時には、弊社デモ機を持ち込んでお客様のネットワーク環境下でのデモンストレーションを実施しました。当時、IP通信網が普及していなかったアジア地域と通信品質にも不安を持たれていたため、現地パートナー会社にも協力を仰ぎ、日本側はお客様先で、海外側は現地パートナーのオフィスにお客様にお越しいただき、海外との音声・映像品質と操作性をご確認いただきました。

海外拠点への導入により、出張コストの削減を実現されました。

グループ企業とも共有し、MCUをフル活用。稼働率が高く、増設の予定も

現在は、グループ企業様と専用MCU・SCOPIA Eliteを共有されています。グループ企業内でもテレビ会議が頻繁に開催されているため、近い将来MCUポート数が不足することが予想されるため、グループ企業用に専用MCUを新規導入し、冗長化運用を検討されているそうです。冗長化することで、万が一、どちらかのMCUにシステムトラブルが起きてても、もうひとつのMCUでテレビ会議環境を維持できることが大きな利点となります。

テレビ会議文化が浸透し、その価値が認められ、本社の全会議室にテレビ会議システムを常設してほしいという声も社内からあがっているほどです。社内でも通信コストや出張費削減に貢献しているテレビ会議の価値を理解されているため、テレビ会議環境の充実化についてはとても前向きな意見が多いそうです。テレビ会議担当者は、ユーザーの期待に応えるため、今後もテレビ会議環境の改善・充実を計画されているとのことでした。

